

重点取組分野	令和 元 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①基礎基本の定着を図り、分かる授業作りを進め、どの児童も楽しんで参加できる授業作りを実践する。 ②問題解決のために必要なことを、身近な生活と関連づけながら自分なりに考え、解決方法を工夫して粘り強く取り組めるようにする。	①授業形態などを工夫し、分かる授業作りを進め、実践してきたが、学力差などからどの児童も参加できたかとなると難しい部分があった。 ②低学年や高学年の一部の教科では、身近な生活と関連づけて学習を進めることができた。解決方法としての交流は意見を伝え合う時間はとれたものの、話合いの時間は少なかったように思う。	B
豊かな心	①達成した喜びを味わえるようにするため、自分の役割を意識して活動に取り組めるよう計画する。 ②道徳の時間に、日常生活の経験を振り返ったり、学習の総合化を図ったりすることで、友達と協力して互いの良さを認め合う機会を増やす。	①振り返りカードを活用したことで、一人ひとりがめあてを意識して活動に臨むことができたが、教師からの声かけが十分でなかったところがあった。 ②2年間の研究により道徳の授業や流れについて理解することができた。一方で、学んだことを日常に活かしていない実態がある。	B
健やかな体	①体育の授業や運動委員会主催の体力づくり週間と連携し、児童が日常的に体力づくりに取り組めるような啓発を行う。 ②保健の授業や学校保健委員会等の取組、給食指導を通して、児童が生活習慣を見直す機会を設ける。	①長縄跳び月間では、クラスで協力し、自発的に体を動かし楽しむ姿が見られたが、日常化にはつながっていないため、継続して取り組めるような計画を立てる必要性を感じた。 ②学校全体で生活習慣を見直す機会を昨年度より増やしたことにより、意識の高まりがみられた。家庭に向けてのアプローチを強化し、さらに意識を高めていきたい。	B
児童指導	①「ルール&マナーブック」を見直したうえで、全職員で内容の共通理解を図り、指導にあたり、各学級でも生活目標の取組に合わせて子どもと一緒に確認する。また必要に応じて確認する。 ②各学級や各委員会でも子どもたちが自分たちの学校生活を見直す機会を設ける。	①「ルール&マナーブック」については職員・児童間でだいぶ定着してきた。教室では掲示所として使用し、指導している。児童の実態に伴い、よりよいものしていくための改善は今後も続けていく必要がある。生活目標のめあては、その都度意識して確認することができた。	B
特別支援教育	①特別支援教育コーディネーターを中心とした特別支援教育部会を月1回開催し、情報共有を進める。 ②特別支援教育研修を実施して、全教職員の特別支援に対するアンテナを高くするとともに、支援を要する児童への効果的なアプローチを継続して行う。	①特別支援教育委員会は定期的に開催することはできたが、月1回開催することは難しかった。各学年においては、情報共有をすることができた。 ②コンサルテーションを年2回実施し、外部機関と連携して、支援を要する児童への効果的なアプローチの仕方を学ぶことができた。	B
地域連携・学校運営協議会	①学校の様子を発信し理解をいただきながら、地域学校協働本部とともに学校と地域との協働体制を構築する。人材活用資料を見える化し、計画的な連携を図れるようにする。②地域やその他の人と楽しく交流し、地域への愛着をもつとともに、自分らしい生き方やあこがれる生き方について考えることができる教育活動を工夫する。	①校舎の建替えの話を中心にしなが、地域の方々や協力して進めることができた。また、幼稚園や地域の方の協力をいただき、スタートキリキュラムの充実を図ることができた。	B
いじめへの対応	①月1回の定期開催の他に、未然防止と実態把握を確実にを行うために、年4回のアンケートをとるとともに、日々の情報交換を密にし、早期対応、早期発見を目指し積極的に支援検討会を開く。 ②いじめ防止研修を実施して、全教職員のいじめに対するアンテナを高くするとともに、いじめを予防する授業を月1回行うことで、だれにとっても居心地のよい学校づくりを進める。	①日々の情報を密に共有することで、早期発見、早期解決につなげることができた。 ②いじめ防止のために、道徳やYPPプログラムなどに取り組み、授業を行ってきた。今後は、職員がいじめ防止の観点より意識して、意図的に授業を行えるようにしたい。	A
人材育成・組織運営(働き方改革)	①キャリアステージに応じた研究・研修を計画、実施し、学び続ける姿勢を大切にすること。 ②仕事の効率化を図る業務改善の見直しと改善に取り組む。チーム力を生かした学年・学校運営を充実させ、教育効果を上げながらも働き方改革を進める。	①キャリアステージのとらえがすこしずれていた。来年は初めに確認をし、そこを意識して活動できるようにしたい。 ②年度途中で業務改善の案を募って検討し、可能なことはすぐに行うことができた。学年・学校運営については年度末に検討し、より学年を主体とできるよう組織を見直した。	B
ブロック内評価後の気づき	万騎が原中学校ブロック内小中交流では、授業参観や情報共有、各教科・領域ごとに担当者が会議を通して、各校の児童・生徒の様子、各小学校の卒業生の様子などを知ることができ、児童・生徒理解に生かすことができた。また、各学校の担当者との顔の見える関係を構築することができ、連絡や相談などの連携を密にすることができた。また、次年度以降の取組として、万騎が原中学校ブロック内での、キャリアパスポートの形式や取組方について、共通理解を図ることができた。今後も様々な情報を共有することにより、児童・生徒指導に役立てるようにしていきたい。		
学校関係者評価	学習面では、学校評価アンケート項目「子ども一人ひとりが学ぶ楽しさや達成感、充実感を味わうことができていた」では、保護者から90%以上の良い評価を得ていたため、今年度の取組が成果を上げていたことが伺えた。その他の質問項目でも、前期と後期のアンケート結果を比較すると、前期よりも「はい」の割合が増えているので、このまま具体的取組に継続して取り組んでいけると良い。いじめへの対応については、早期発見、解決に努めて十分に成果を上げていると言える。重点取組分野「健やかな体」については、レクタイムに校庭で体を動かして元気に遊ぶ姿が見られた。また、長縄や短縄に熱心に取り組む姿や、なかよし集会で楽しく遊んでいる姿が見られた。働き方改革をさらに推進していくべきである。		

重点取組分野	令和 2 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知			
豊かな心			
健やかな体			
児童指導			
特別支援教育			
地域連携・学校運営協議会			
いじめへの対応			
人材育成・組織運営(働き方改革)			
ブロック内評価後の気づき	万騎が原中学校ブロック内小中交流では、授業参観や情報共有、各教科・領域ごとに担当者が会議を通して、各校の児童・生徒の様子、各小学校の卒業生の様子などを知ることができ、児童・生徒理解に生かすことができた。また、各学校の担当者との顔の見える関係を構築することができ、連絡や相談などの連携を密にすることができた。また、次年度以降の取組として、万騎が原中学校ブロック内での、キャリアパスポートの形式や取組方について、共通理解を図ることができた。今後も様々な情報を共有することにより、児童・生徒指導に役立てるようにしていきたい。		
学校関係者評価	学習面では、学校評価アンケート項目「子ども一人ひとりが学ぶ楽しさや達成感、充実感を味わうことができていた」では、保護者から90%以上の良い評価を得ていたため、今年度の取組が成果を上げていたことが伺えた。その他の質問項目でも、前期と後期のアンケート結果を比較すると、前期よりも「はい」の割合が増えているので、このまま具体的取組に継続して取り組んでいけると良い。いじめへの対応については、早期発見、解決に努めて十分に成果を上げていると言える。重点取組分野「健やかな体」については、レクタイムに校庭で体を動かして元気に遊ぶ姿が見られた。また、長縄や短縄に熱心に取り組む姿や、なかよし集会で楽しく遊んでいる姿が見られた。働き方改革をさらに推進していくべきである。		

重点取組分野	令和 3 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	c1		
豊かな心	c2		
健やかな体	c3		
児童指導	c4		
特別支援教育	c5		
地域連携・学校運営協議会	c6		
	c7		
	c8		
いじめへの対応	c9		
人材育成・組織運営(働き方改革)	c10		
ブロック内評価後の気づき	万騎が原中学校ブロック内小中交流では、授業参観や情報共有、各教科・領域ごとに担当者が会議を通して、各校の児童・生徒の様子、各小学校の卒業生の様子などを知ることができ、児童・生徒理解に生かすことができた。また、各学校の担当者との顔の見える関係を構築することができ、連絡や相談などの連携を密にすることができた。また、次年度以降の取組として、万騎が原中学校ブロック内での、キャリアパスポートの形式や取組方について、共通理解を図ることができた。今後も様々な情報を共有することにより、児童・生徒指導に役立てるようにしていきたい。		
学校関係者評価	学習面では、学校評価アンケート項目「子ども一人ひとりが学ぶ楽しさや達成感、充実感を味わうことができていた」では、保護者から90%以上の良い評価を得ていたため、今年度の取組が成果を上げていたことが伺えた。その他の質問項目でも、前期と後期のアンケート結果を比較すると、前期よりも「はい」の割合が増えているので、このまま具体的取組に継続して取り組んでいけると良い。いじめへの対応については、早期発見、解決に努めて十分に成果を上げていると言える。重点取組分野「健やかな体」については、レクタイムに校庭で体を動かして元気に遊ぶ姿が見られた。また、長縄や短縄に熱心に取り組む姿や、なかよし集会で楽しく遊んでいる姿が見られた。働き方改革をさらに推進していくべきである。		

中期取組目標振り返り
 学年・学校担任を意識して組織で取り組むことに力を入れてきた。その成果が顕著に表れたのは、いじめへの対応である。一人で抱え込まず、早期発見・早期解決に高い意欲をもって職員全体で対応してきた。組織的に取り組む強みは「豊かな心」の道徳の研究を通じた授業の質の向上や「健やかな体」の縄跳びの取組などにも表れている。来年度は「生きてはたらく知」において、学力差があっても全員が参加できる授業づくりの在り方を探り、「明日も来たい」学校づくりをしていきたい。そのために、学年でより組織的に取組内容を仮説・検証していくシステムを構築していきたい。

中期取組目標振り返り
 学年・学校担任を意識して組織で取り組むことに力を入れてきた。その成果が顕著に表れたのは、いじめへの対応である。一人で抱え込まず、早期発見・早期解決に高い意欲をもって職員全体で対応してきた。組織的に取り組む強みは「豊かな心」の道徳の研究を通じた授業の質の向上や「健やかな体」の縄跳びの取組などにも表れている。来年度は「生きてはたらく知」において、学力差があっても全員が参加できる授業づくりの在り方を探り、「明日も来たい」学校づくりをしていきたい。そのために、学年でより組織的に取組内容を仮説・検証していくシステムを構築していきたい。

中期取組目標振り返り
 学年・学校担任を意識して組織で取り組むことに力を入れてきた。その成果が顕著に表れたのは、いじめへの対応である。一人で抱え込まず、早期発見・早期解決に高い意欲をもって職員全体で対応してきた。組織的に取り組む強みは「豊かな心」の道徳の研究を通じた授業の質の向上や「健やかな体」の縄跳びの取組などにも表れている。来年度は「生きてはたらく知」において、学力差があっても全員が参加できる授業づくりの在り方を探り、「明日も来たい」学校づくりをしていきたい。そのために、学年でより組織的に取組内容を仮説・検証していくシステムを構築していきたい。